

平成 26 年度第 1 回

柳川市観光まちづくり推進委員会 報告書

- と き 平成 26 年 7 月 23 日 15:00～17:00
- ところ 柳川市役所柳川庁舎 4 階委員会室
- 参加 別添名簿参照

1 開会

(松藤観光課長)

- ・お礼のあいさつと資料の確認。

2 市長あいさつ(代理 石橋副市長)

- ・観光まちづくり委員会では平成 21 年 3 月に観光振興計画を策定して 5 年が経過し、中期期間が満了したことで効果を検証したい。今回様々な分野の方にご参加いただいています。柳川市では 10 年後に 150 万人を目指しています。平成 25 年で 120 万人ですが、野心的な施策を皆様から幅広いアイデアをだいでいただきたい。千教授からはゆるり旅などたくさんのアイデアをいただいた。さらに飛躍できるように柳川にしていきたい。観光産業はとてすそ野の広い産業でして第 1 次、2 次、3 次産業すべてが発展していく。これを起爆剤として頑張っていきたいと思ひます。

3 委囑状交付

※市長が不在ですので、机の上に設置させていただいております。ご了承ください。

4 委員の紹介

(千教授)

- ・平成 20 年観光振興計画の策定の前から観光客アンケート調査から関わっています。今回、振興計画の見直しは 2 回目ということで、委員の皆様から違った目線でご意見をいただき、新しい方向性を示していければと思います。

(園氏)

- ・主にインバウンドを担当しております。九州にどんどん外国人観光客は増えてきています。その動きを柳川にもつながられる話ができればと考えています。

(藤木氏) ※九州観光推進機構 高橋本部長の代理

- ・九州観光推進機構が発足して以降、9 年間纏まらなかった九州のブランド戦略ですが、先月ようやく、インバウンド向けの九州のブランドがまとまりました。何を入り口にするかを各知事、経済団体で構成する九州地域戦略会議で承認いただきました。九州はまだ海外に知られていないということで、「温泉」を切り口に誘致を図っていきます。Relax &

Rejoice、「ONSEN ISLAND KYUSHU JAPAN」のロゴ・キャッチコピーでポスターを始めとした販促ツールを作成して、色んな場で活用しながら海外に九州の魅力をアピールしていきます。機構会員を始め民間企業や各県にも活用していただいています。柳川市でも海外へのプロモーションの際は、ぜひ九州のブランドを活用していただければと思います。

リラックス&リジョイス、「温泉アイランド九州ジャパン」でピンバッチを作成して、色んな場で活用しながら海外に誘致をかけていきます。柳川でもぜひ九州のブランドを使っただけければと思います。民間企業や各県にも活用していただいています。副市長からもありましたが九州地域戦略会議でも今後10年間観光産業を九州の基幹産業にするといった方向性を示していただきました。

(川口氏) ※福岡観光コンベンションビューロー 山方事務局長の代理

・福岡では新たなMICE誘致ということで、専門的な民間のスタッフも加えて体制を強化し「ミーティングプレイス福岡」を立ち上げました。MICE誘致と言っても会議を持つだけでなく、アフターコンベンションも重要であります。ぜひ、柳川市とも連携をさせていただきながら進めていきたいと思っています。

・出身は大川市ですが、いつも柳川市出身と紹介をさせていただいております。

(帆足氏)

・やまごころはインバウンド向けのポータルサイトを運営し情報を発信しています。私自身「シティ情報ふくおか」で記者をしておりまして、柳川もたくさん取材させていただきました。柳川市はまだたくさんの魅力があります。この魅力を国内外の皆様に発信できればと思います。

(清澄氏)

・アヴァンティは情報誌だけではなく、2月には西鉄さんと連携して福岡の女性たちを柳川に訪問させていただきました。モニターの皆さんということで定期的にツアーをしています。ツアーだけではもったいないので、今年3月には福岡市内のホテルイルパラッティオツォで女性200名を集めて「女子旅観光エキスポ」を開催しました。鹿児島、大分、長崎など11か所の地域からブースを出していただきました。その中で一番人気だったのが柳川市のブースでした。観光に市民挙げて取り組んでいることの表れだと思います。益々誘致を進めていかれるということで少しでもお役にたてればと思います。

(大野氏)

・地域おこし協力隊で関西神戸からきています。柳川ブランド認定品で柳川の魅力を知ってもらうことを仕事にしております。つい先日も福岡大丸で物産展をしました。もちろんやってよかったですが、課題も見えてきました。今後もがんばっていききたいと思います。

(坂田氏)

・地域おこし協力隊で1月に東京からきています。若者の移住定住促進を担当しております。私自身が中国、東南アジアの研究をしていました。その後はIT系の若者をIT系コンサルに紹介する仕事をしておりまして。特に、留学生や海外の若者を担当していました。インバウンドのマーケティングという面で海外の若い人、東京にいる若い人達の視

点で柳川の魅力を提言できたらと思います。

(風間氏)

・地域おこし協力隊でフィルムコミッションを担当しています。映画、ドラマの誘致をして
おります。今年になってタイ、マレーシア、韓国のドラマや情報番組の撮影がありました。
その中で聞く話ですが、九州を縦断する時でも柳川は外せないというぐらい柳川はポテ
ンシャルが高いと思います。

(垣外氏)

・5年前まで福岡市に住んでいましたが、柳川に戻ってきて、柳川の地域資源を1000
個見つける「柳川千の物語事業」に関わり、現在はフィルムコミッションのホームページ
の製作やロゴのデザインをしています。柳川のまだ見えていない魅力を発信できればと
思います。

(山田氏)

・道守活動も今年で10年になります。私自身ツアーコンダクターをしていましたが、まち
がきれいでないとリピーターに増えないという想いで、まちを清掃することから始めました。
今回観光と言うことで興味がございます。また、委員の皆様も柳川以外からおいでいた
だいている方も多くいらっしゃいますので、心強く思います。市民として頑張りたいと思
います。

(富安氏)

・11年後には三柱神社の200年祭がございますので、たくさんの方においでいただき
いと考えております。インバウンドでは2020年にオリンピックがございます。私の施設に
もほぼ毎日海外のお客様が宿泊していただいています。その中で感じる事が、個人旅
行が増えてきていると思います。その部分でも情報発信ができればと思います。

(緒方氏)

・稼業は蒲鉾屋をしています。今回、柳川観光振興プロジェクトチームから参加させてい
ただいております。観光プロジェクトチームは、市民の有志が男女、年齢、職業問わず
集まっている団体です。モットーは「近きもの悦び近きもの来たる」ということで、千教授
にも参加いただいています。小さなまちおこしをしています。私は柳川生まれ、柳川育
ちで、一生を柳川で暮らすと思います。大好きな柳川のために何かできればと思ってい
ます。

(高橋氏)

・本業は食品製造業をしております。柳川に住んでいらっしゃる方と外に住んでいらっ
しゃる方が参加されています。ぜひ、貴重な意見交換をさせていただければと思いま
す。

(石橋副市長)

・副市長に就任して3年目です。出身は大川市で、柳川のとなりまちと説明します。
・柳川はおもてなしの心日本一のスローガン掲げて観光も含めて取り組んでいます。こ
のことも踏まえて皆様からご意見いただければと思います。

■事務局紹介

5 要綱の説明

※資料1に基づき説明

6 会長と副会長の選出

※事務局副案のご提案 ※了承いただく。

・会長に九州産業大学の千教授。副会長に石橋副市長。

→拍手をもって承認いただく。

(千会長)

・今回で見直しが2回目になります。前回提言のキーワードとして「地域力」を掲げました私も柳川の外から見たときに「川下り」と「うなぎ」が強かった。

その他にもたくさん資源、魅力があるにもかかわらずそれだけに頼りきってきたことを問題として認識した上で、地域のあるものを有効的に打ち出していく必要があるそこには地域の若者が参加しやすい環境づくりが必要でもあり「地域力」をキーワードとした。

平成21年に観光振興プロジェクトチームが立ち上がり、色んな事を実施してきました。どんこカフェやどんこジャズなどを実施してきた。今回2回目の見直しに入るわけですが若者だけではなく、地域の関係者の皆様の観光に対する意識を考えていただくために平成24年から「ゆるり旅」を立ち上げました。

・計画期間10年間の内6年目に入ります。これまでの事業で成果が出てきた部分もございませし、まだまだできていない部分もございませ。インパクトのあるなし含めて。

・行政は人事異動があり、3年で変わりますが、柳川市としても観光のプロパーを育てる覚悟を持って取り組んでいらっしゃると思います。150万人は達成できる数字だと思います。検証と共に5年間の方向性を示していただければと思います。また、5年後の柳川の姿についてもご提案いただきければと思います。

・ストレスがたまらない会議にしたいと思います。言いたいことは行っていただく会議にしていきたいと思ひます。

(石橋副会長)

・この委員会の名称は「観光まちづくり推進委員会」ということで、単なる観光振興を超えたものだと考えております。まちをもっともっと魅力的にしていきたいと考えています。観光まちづくりではないかと思ひております。柳川にはうなぎ、白秋、川下り、御花がございませますが、みんなでつくっていけるまちづくりができればと考えております。皆様には色んな視点からご意見いただければと思ひます。特に、野心的なご意見をお願いします。

7 議事

(1)計画の概要説明と前回提言

(2)委員会の位置づけと協議内容の整理

(3)スケジュールプラン

※資料 2 に基づき説明(P1～P10)

(千教授)

- ・資料 2 の 9 ページに委員会の検討する内容や取り組みがございますが、まずは、取り組みの評価、次に今後の長期事業に伴う方針や方法論に対するご意見をいただければと思います。
- ・先程の説明は、PDCAのCにあたる部分ですが、何かご意見やご質問はございますでしょうか。

(坂田氏)

- ・柳川市の観光で世代間の格差があると思いますが、50 歳代以上の人たちと、20 代、30 代の人たちに分けられると思います。20 代、30 代の方々が減ってきていると思いますが、何か、その世代に対する施策はございますか。

(事務局)

- ・11 ページに観光客アンケートに基づいた年代別のデータを掲載していますが、23 年度は若年層が伸びておりましたが、26 年度は 60 代の団塊の世代が伸びてきている状況です。まだ、中間報告ですがでております。
- ・若い方へのアプローチで前回の委員会では情報発信の面が課題ではないかといったご意見をいただきました。観光課のフェイスブックやスマートフォンアプリの活用がございます。まずは知っていただく部分に注力してきました。

(清澄氏)

- ・資料 2 の 7 ページに「ゆるり旅」の事例が紹介されていますが、すごく興味を持ちました。それと、千会長がおっしゃった「地域力」こそ大事であるということは人の力だと思います。それを形にされたプロジェクトチームの活動をもっと知りたいと思いました。

(千会長)

- ・どんこ舟にお菓子を持ち込んだり、着物を着て川下りをしたりとどんこ舟を活用した企画をプロジェクトチームで展開してきました。詳しくは、緒方さんお願いします。

(緒方氏)

- ・市民の小さな集まりですが、一番先に考えたのはどんこ舟です。柳川には先程からも話が出ておりますように「川下り」「うなぎ」「御花」です。その川下りをする舟のことを「どんこ舟」といいます。どんこ舟を活用してもっと魅力が発信できないかと考えました。プロジェクトチームは女性が多いので女性目線で考えたときに、柳川には「お菓子屋さん」が多く、舟の上にお菓子を持ち込んでどんこ舟をカフェにしてみようと思いました。通常川下りをされる観光客はお茶などの飲み物を持ち込まれる程度なので、それだけではもったいないので、カフェにしてお菓子やコーヒーを飲みながら楽しんでいただきました。特に、今まであまりどんこ舟に乗らない層の若い女性や若いお母さんたちをターゲットにしました。やってみて、今までターゲットとしていない子供連れの若いお母さんがたくさん参加いただきました。市内の方が大半だったのですが、すごく楽しかったとおっしゃっていただきましてプラスだったと思います。今では着物を着てどんこカフェをしてもらって

ます。新しいものは作ることはできませんが、今あるものに少しでも新しいものをつけるだけでお客様に喜んでいただいています。

(千教授)

・もうひとつ、愛嬌挨拶(えいぎょうえいさつ)について報告をお願いします。

(事務局)

・柳川に昔からあるおもてなしの文化で「愛嬌挨拶」という言葉がございます。柳川藩の立花宗茂公が流浪の際にある民家の方から御赤飯とおなますをいただいたことに由来しています。その昔から柳川にあるおもてなし文化「愛嬌挨拶」を残していくといったプロジェクトチームの思いもあり、平成 21 年度から開催させていただき、ある店舗では「赤飯とおなます」を振舞っていただいたり、愛嬌挨拶限定の商品を販売していただいたり、と市民に知っていただく取り組みをしております。

(清澄氏)

・地元で対象でなかった方々の参画していくことはかなり大事だと思います。6 ページにある足元を固めることはこのことだと思います。もっと情報をオープンにした方が良いと思います。

(3)スケジュールプラン

※資料 2 に基づき説明(P10~P17)

※資料 3 に基づき説明

(千会長)

・中間報告ですが、満足度はかなりあがっていますが、観光客の要望事項は 10 年前と変わっていない状況です。このような問題も抱えています。
・1 回目の会議では委員会の目的と位置づけを共有することと柳川の現状を知っていただくことが狙いですが、2 回目の会議に向けて本日の議題に関係なくご意見をお願いします。

(風間氏)

・外から来た人間からすると、情報が外に発信できていないような気がします。パンフレットの設置も市内中心で、都内や関東圏にはどこに設置しているのか、ポスターはどこに張っているのかが不透明。取り組みは素晴らしいので発信力が弱い気がします。

(山田氏)

・いいパンフレットを作成しているが、「どこに設置しました」で満足してしまっているような気がします。パンフレットの内容に応じてターゲットを明確化した上で設置をしていくことが大事だと思います。
・トイレの問題がございましたが、私もいろんな国を訪問してきましたが、皆さんが一番気になるのがトイレです。日本はトイレに対する考え方が遅れています。先日、工事中ということもあるかもしれませんが、柳川駅をおりたらトイレの臭いがしました。トイレの臭いに迎えられて柳川に来た方はどういうイメージになるかと考えました。公衆トイレも同じです。トイレはもう少し力を入れた方がいいと思いました。

(藤木氏)

- ・先程ご報告がありましたが、観光客数、消費額等調査して把握をされていると思います。誘客目標として150万人を掲げていらっしゃると思いますが、宿泊者数の目標があるのかなのか。これは、柳川市として日帰りをメインに誘客していくのか、宿泊をメインに誘客していくのかを明確にしていく必要があると思います。
- ・データでは、宿泊者数が42,000人となっていますが、市内全体の宿泊のキャパシティ、稼働率といった部分まで分析をしていかないと検証は難しいと思います。消費額を見ると1人の定住人口に対して国内からであれば24人の宿泊者を誘致すると同じです。国内外からの宿泊者数を増すためには宿泊していただくための必然性が出てきます。観光協会からもいい提案がありましたが、花火や朝市など柳川に宿泊する必要性をつくっていくと宿泊していただきます。
- ・柳川として、日帰りをメインに誘客していくのであればそれでもいいのかと思います。現在阿蘇では韓国のお客様には宿泊は遠慮していただいているとのことでした。費用対効果が少ないため、福岡市内に宿泊していただき、阿蘇への日帰りは大歓迎とのことでした。
- ・我々が狙っているのは経済波及効果だと思いますので、そこも少し精査するのでもいいと思います。

(富安氏)

- ・宿泊の現状ですが、柳川には客室が20室～30室の旅館が3つ。15部屋、25部屋のビジネスホテルが2つあります。
- ・柳川には旅館タイプが多く、本来は団体を誘客することですが、宿泊者数を増やしていくことができません。キャパ不足のため、現状としては、筑後7国で受入れをしていくこととしています。筑後船小屋駅周辺には運動公園がございますので、スポーツ団体の誘致も進めております。また、ホークスの2軍もきますので、スポーツ大会を開催していただくような働きかけを行っていきます。
- ・宿泊施設が増えないと厳しい。宿泊施設の数が減っているのも宿泊者数の減少につながっていますが、稼働率自体は若干伸びています。福岡市内は飽和状態で、博多駅付近は稼働率が95%を超えていますので、福岡市内から日帰りで昼に食事で部屋を使っただいております。稼働率は悪くはないですが、団体に弱いといった部分がございます。

(藤木氏)

- ・近郊にはビジネスホテルも久留米、大牟田にもありますので、周辺との連携をしていくことはいいと思います。

(富安氏)

- ・柳川市内のホテルだけでは受け入れは厳しいので、近隣も含めてキャパを発信していくこともやっていく。
- ・MICE関係で久留米市にもコンベンション施設ができます。特に医学関係のコンベンションは、土日がメインになりますので、柳川市内にも宿泊していただけるような取り組み

ができればと思います。

- ・7月1日から大型バスの貸し切り料金体系が変わります。かなり高くなります。これからも乗用車でのお客様が増えてくると思います。現状バス会社では減車をしています。団体客もかなり減ってくると思います。料金としては、2倍にあると思います。インバウンドも個人移動が多くなると思います。
- ・10月には長崎国体があります。それもありバスがありません。修学旅行、総体で一般団体にバスが行き届かないので、その時期には団体客が減るのは間違いないと思います。

(團氏)

- ・2次交通の視点でお話をさせていただきます。九州のゲートウェイとして大きな役割を持つ福岡空港国際ターミナルは、海外から到着した外国人旅行者にとって必ずしも便利な機能を有する空港とはなっていません。九州運輸局としては、関係機関の協力を得て、九州を訪れるインバウンド客の受入環境方策として、国際ターミナルと各方面を結ぶ高速バスのネットワーク化やレンタカーカウンターの設置などに取り組んでおります。
- ・レンタカーにつきましては、昨年末から飛躍的に伸びてきています。利用は2泊3日から長いので1週間以上と、レンタカーの活用は非常に重要なものになっています。運輸局でもレンタカー利用を促進するため、繁体字、韓国語、英語でガイドマップを作成・配布しています。
- ・資料2の12ページにあります。すばらしいアンケートをしていただいています。福岡市内、福岡市外の県内、県内以外の九州、九州外と割合的に少しばらつきがありますが、福岡市内から21%の方がお見えになっています。また、九州内の居住地では長崎県が大きく伸びています。この一連のデータをどこからお見えになっているのか、どのような情報発信が効果的だったのかを含めてお考えいただければと思います。
- ・北海道、東北は少ないですが、関東、中部、近畿からお客様が増えています。輸送機関がどうなのか。近畿から以西は新幹線で博多駅まで来て、乗り換えて動く。中部は新幹線を乗り継いで博多駅に。関東は飛行機なのか。飛行機であればどこに入ってきたのか。交通機関とお客様の動きは少し整理していった方が情報発信していく上で、どこ組んでどこに向けて情報発信したら効果的なのかが分かるのではないかと思います。
- ・海外からのお客様が伸びています。特に台湾のお客様が伸びていますが、理由はつかんでらっしゃるのか。台湾からは宮崎、鹿児島が1日1便。熊本はチャーター便が運航しています。もう少し増えた理由を深堀し、今後どのような形でお客様を呼び込むのかどこをターゲットにするのかを詰めていくと次の戦略が練りやすいと思います。

(高橋氏)

- ・観光客の居住地については、九州県内の割合ですが、これは九州各県には大手のエージェントがかなりの送客をされますが、毎年同じ場所には行きません。昨年は長崎に行ったから今年は柳川に行こうといったように2年～3年サイクルで動いています。これ

は九州に限ったことですが。

- ・情報発信についての話がございましたが、観光協会としても大きな課題です。我々もできる限りメディアに発信したり、イベントに出向いて行ってPRしたりとしておりますが、それ以上に、柳川の地元の方が知らないことが第一の課題だと思います。地元の方が楽しんで発信しそれを聞いた人が柳川に来るといったことが大切だと思います。

(藤木氏)

- ・情報発信はせっかくの機会をどのように使っていくのかだと思います。今はウェブが主流ですが、紙媒体も必要です。福岡市内の無料配布先として、天神プラザ、県民プラザ、西鉄天神駅観光案内所、福岡観光コンベンションビューローさんなどがございますので、定期的に配布されているのかチェックが必要かと思います。福岡市役所内には九州全県のパンフレットを設置しています。色々とうまく使いながら目に触れる機会を増やすことが大切だと思います。

(千会長)

- ・MICEの関係で柳川はアフターコンベンションの場所としては魅力的だと思いますが、柳川に足りない部分や要望がございましたらお願いします。

(川口氏)

- ・MICE誘致に関しては、連携していく部分だと思います。福岡市だけでやるのではなく、九州全体でやっていきます。2年後にライオンズクラブの世界大会があります。国内外から35,000人のお客様がお見えになります。福岡市内だけでは宿泊のキャパは足りませんので、コンベンションは福岡で開催しますが、宿泊については、温泉地とのタイアップ、新幹線で熊本まで約20分ですので、熊本市にも宿泊していただいといたことになります。柳川での宿泊は厳しいようですが、アフターコンベンションやインセンティブでの連携が出てくると思います。
- ・情報発信については、メルマガなど企業に発信をしておりますので、素材をいただければと思います。
- ・興味を持っているんですが、海外からのお客様は増えてきていますが、外国人向けのサービス不足やサインの不足がありましたが、外国人観光客向けサービスの改善策をしていっしょやるようであれば教えてください。

(事務局)

- ・スマートフォンの4カ国語対応などはございますが、まだ無料Wi-Fiの整備ができておりません。
- ・サイン計画については、本年度ある程度設置に向けて検討をしています。
- ・市のホームページも以前は日本語だけでしたが、4月から250カ国語対応にしております。できることからやっていくことで対応をしています。

(川口氏)

- ・観光客がどこに行ったら何があるのかが分からないと思います。ピクトサインなどを活用していただき、外国人にやさしい全国初の取り組みを柳川でしていただくとまた注目されると思います。

(富安氏)

・案内が一番大変だったとの声は聞ききます。

(藤木氏)

・柳川市内に外国人対応の案内所はあるんですか。

(富安氏)

・今はありません。現在はスマートフォンのアプリで対応をしています。今後はもっと発達してくると思いますが、標識については整備が必要だと思いますし、Wi-Fi整備も必要だと思います。

(千会長)

・清澄さんが先程、観光エキスポで柳川が一番人気だったといわれましたが、その理由は何だと思われますか。また、実際イメージと評価のギャップがあったのであれば教えてください。

(清澄氏)

・一番の理由は観光PRが事務的ではなかったのが、地元の方々がおいでになって熱が伝わりました。商品ではなく、その人の思いが伝わったことだと思います。取り組まれる姿勢が伝わったことだと思います。

・逆に質問をさせていただきます。資料3の7ページにあるように川下り者数は増加していますが、資料2の15ページにある消費額は同額ですが、これは矛盾しているような気がします。川下りの改善要望事項がございますが、これは取り組まれるんですよね。

・海外や九州県外からのお客さまにとって川下りは大きな観光資源だと思います。船頭さんの案内一つでテンションが上がったり、下がったりするんですが、他にはない資源がどう生かされていくのかがピーターをつくれる分岐点だと思います。地元の方の思いがどこまであるのかが人の心をつかむと思います。船頭さんも仕事ではなく観光大使の思いでご案内していただくと人を引き付けると思います。プロジェクトチームなど地域の人の思いを伝えることも重要です。

・西鉄電車で柳川に降りてもようこそ柳川においでいただきましたといった感じがしません。

・この委員会がこのような取り組みを改善できることができればと思います。

(事務局)

・川下りの消費額については、1人あたりの消費額を整理させていただいておりますが、おっしゃる通り同額です。これは観光客アンケートに基づくものなので、間違いはございません。しかし、中間報告でございますので、最終的には変わってくるかもしれませんが、川下り料金については、ここ10年以上据え置きで運航していますので、そのことも理由の一つと考えられます。

(千教授)

・川下り料金の設定は各社自由に決定できます。

(富安氏)

・30分コースで1,000円で運航しているケースもある。30分コースも旅行会社からのオ

ーダーで始まったもの。

- ・川下りが増えたことの要因は外国人観光客が増えたことが考えられる。
- ・川下りの改善要望ですが、船会社が6社あるんですがばらばらです。勉強会をしても出てくる船頭さんは頑張ってもらっていますが、逆に全く出てこない船頭さんをどうするかといったことが課題となっています。船頭全体のレベルアップも必要です。もちろん、船頭さんの中でも名物船頭さんがいらっしゃるので、その方と一緒に観光プロモーションに行ってもいいと思いますが、皆様のご意見をお願いします。

(大野氏)

- ・地元の人との温もりが一番心に残ります。案内サインも大事だと思いますが、地元の人との交流ができるように「指さし会話集」はいいと思います。川下り、「うなぎも良かったが柳川の人が親切で一番良かった」と言ってもらえるようにと思います。

(山田氏)

- ・60代、70代の方が増えてきていますが、その年代の人から聞くのがパンフレットの字が小さいとの声をよく聞きます。パンフレット作成する際には、見やすさや字の大きさと内容も最小限に気を配ってつくっていただきたい。
- ・個の年代は紙媒体を見るので情報をつかみます。

(垣外氏)

- ・福岡市のサインのガイドライン作成に関わらせていただきましたが、その時にも4カ国語標記の話が出ましたが、実際つくると大きくて記念写真撮影の邪魔になったりしました。スマートフォンと連動させて、サインは日本語表記ですが、かざすと外国語表記ができればと思います。

(坂田氏)

- ・国際的プログラムの基準システムは予算の関係等ありますし、Wi-Fiの整備は必要になってきますが、スマートフォンをかざすと標記を照らすだけで外国語が出てきたりするようにできると思います。数年後には、技術的にさらに進化するので、検討してもよいのではないかと。

(千会長)

- ・沖端の観光案内所が外国人観光客に分からないという現状があります。まだまだ。

(石橋副市長)

- ・柳川市はどのような方針を目指すのか。本日は具体的な提案もいただきましたし、柳川として日帰りなのか宿泊なのかといった話もいただきました。宿泊施設が少ないということは認識しております。産業振興の中でホテル誘致が最重要課題。
- ・一番気になっているのがトイレです。高地県庁おもてなし課を視察してきました。その中で「おもてなしトイレ」の制度を設けていることが一番で、きれい、明るいあたり前、プラスワンのトイレを目指していくことで取り組まれていました。女性はきれいでないと入らない。この制度は柳川でもぜひ取り組みたいと考えています。
- ・データ分析はしっかりやっていく必要がございます。今まで色んな調査をやってきましたが、もう一度深掘しながら問題点を探りながら本日ご提案いただいた内容に結び付け

ていきたいと感じております。

(千会長)

・本日の内容も踏まえて、次回もっと具体的な議論をしていただきたいと思います。

■第2回目の会議のご案内

(事務局)

・第2回目は8月21日(木)15時00分からお願いします。会議後は柳川ならではのナイトメニューでどんこピアをさせていただきます。

・次回は九州運輸局、福岡の取り組みを共有させていただければと思います。

8 閉会

※松藤課長